

目次

写真で見る大震災と避難所生活・ボランティア活動	2
新版の発行にあたって 元新潟県養護教員研究協議会会長 福嶋 栄子	4
1 新潟県中越大震災における新潟県養護教員研究協議会としての取り組み	8
2 震災後の養護教諭の対応	10
——被災地区の学校「養護教諭へのアンケート調査」から	
(1) 震災後の養護教諭の動き（学校再開まで、再開から1週間）	10
(2) 震災後の保健室の利用状況（学校再開から1週間、2週間目から1ヵ月、1ヵ月以降の主な変化）	15
3 ボランティア活動	18
(1) 「保健室の先生」としてのニーズの掘り起こしと呼びかけ	18
(2) 活動の内容	21
(3) ボランティア活動に従事した会員の声	21
1) 新潟県養護教員研究協議会としてのボランティア活動	21
①一般ボランティアとして参加	
②養護教諭としてのニーズに応じて	
2) 看護師として医療ボランティア活動	23
3) 赤十字安全奉仕団の活動	23
4) 被災者として避難している所での活動	23
4 養護教諭としてどう対応したか	24
1 被害が大きかったが避難所となった学校	
1-1 激震地で被害が大きかった小学校	24
1-2 地震発生直後に避難所になった中学校	28
2 被害が大きく避難所とすることができなかった学校	
2-1 学区の全住民に避難勧告、他校に間借りして再開したA小学校	30
2-2 校舎の損壊が大きく、他校に間借りして再開したB小学校	32
2-3 避難所とすることができず、救援物資が届かなかったA中学校	33
2-4 仮教室→仮設校舎と、二度引っ越したB中学校	35
3 被害が大きかったが避難所となり、医療チームが入った学校	
3-1 心のケアチームも入ったC小学校	38
3-2 心のケア専門の看護師チームも入ったD小学校	44
3-3 医療団の支援が入ったが、効果的対応が難しかったE小学校	48
3-4 収容能力を超え、混乱が見られたF小学校	50
4 被害が小さかった学校	
4-1 寄宿舎を併設している養護学校	52
5 防災センターではないが指定避難所となった学校	
5-1 学校職員で避難所を立ち上げた小学校	54
5-2 支援物資到着まで数日かかった中学校	55

6	通学域が広範囲な高等学校	
	6-1 小中学校への対応とは格差を感じる。高校生にもケアを	58
5	被災地区の養護教諭の声	60
	・ 自宅が全壊。出勤できたのは9日後	60
	・ 自宅が全壊	61
	・ 全村避難の小学校 連携・協力という基本の大切さを実感	62
	・ 全村避難の中学校 8カ所の避難所と9カ所の親戚に分散	63
6	まとめとして——評価と課題	64
	1 全体評価	
	1) 学校における対応	64
	2) 避難住民に対して	65
	3) 行政・関係機関・地域などに対して	65
	4) ボランティア活動について	66
	5) 新潟県養護教員研究協議会としての取り組みについて	66
	2 今後の課題	
	1) 学校内における対応について	67
	2) 避難所について	68
	3) 行政・関係機関などについて	68
	4) 養護教諭の専門性を活かしたボランティア活動について	68
7	チェックリストとマニュアル（新潟県養護教員研究協議会作成）	70
	(1) 災害発生時対応チェックリスト	70
	(2) 災害時支援活動マニュアル	72
	(3) 自治体の防災用品として備えておきたい物品（養護教諭の立場から）	72

【資料】

新潟県養護教員研究協議会からの取り組みの呼びかけ 74
 ～被災地の養護教諭に向けて「災害時心のケアについて」～

会員の資料

- (1) 被災後の健康観察表 79
- (2) 「心のケア」に関する校内研修の資料
 災害時における心のケアについて
 - 1) 災害発生直後から授業再開まで 81
 - 2) 授業再開後 84
- (3) 保健だより等 89

アンケート調査の内容 93